

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2693000081		
法人名	三菱電機ライフサービス(株)		
事業所名	長岡京ケアハートガーデン グループホーム「今里」		
所在地	京都府長岡京市今里畔町21-1		
自己評価作成日	令和 2年 3月 30日	評価結果市町村受理日	令和 2年 9月 23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JkyosvoCd=2693000081-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 きょうと福祉ネットワーク一期一会
所在地	京都市右京区西院久田町5番地
訪問調査日	令和 2年 6月 24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・理念に「笑顔があふれる暮らしを共に」を掲げて、誰もがいつも不安なく笑顔があふれる暮らしができるような関わりを心がけている。
 ・暮らしの場である事を大切に、その方らしい生活の継続ができるように住み慣れた地域環境になるように心がけている。
 ・年々地域との関りも増えてきており、交流の場ができてきている。
 ・季節に合わせた企画も多く、ユニットを超えた馴染みの関係を気付く事ができている。
 ・どんなことでも話し合える環境を作ることで、安定した職員体制を保つことができている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

長岡京ケアハートガーデン グループホーム「今里」は、2ユニットの施設です。日々業務に追われがちであることを課題として、職員が楽しい雰囲気であることが利用者の笑顔に繋がる、笑顔で関わったことは利用者は忘れないという思いなど「笑顔があふれる暮らしを共に」という理念に基づき、笑顔があふれる暮らしができるような支援を心がけています。また、利用者にとって「食えること」は日々の生活における大きな関心事であり、利用者が「美味しい」と言っている時が1番素敵だという気づきから様々な企画を工夫しています。地域との関わりでは、買い物をする所が少ない地域であることから、事業所敷地内の駐車場に移動スーパーに来てもらい、利用者や地域の方が買い物することで交流できるような新たな取組みに取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・毎日朝礼で唱和することで浸透しつつある。 ・理念である「笑顔あふれる暮らしを共に」の笑顔があふれるという事への意味を、職員からの利用者との関りの報告を受ける時に、何を大切にすることが、利用者の笑顔に繋がるかを話し合うように心がけている。	平成30年度に職員全員で策定した事業所独自の理念「笑顔あふれる暮らしを共に」については、日々業務優先になりがちであることを課題として、職員が楽しい雰囲気であることが利用者の笑顔に繋がると実践に繋がっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・納涼祭の案内を近隣にしたことで子供連れの家々の参加があり、交流ができています。 ・近隣の保育園との行き来があり誕生会に招いて頂いたり来て頂いたり良い関係ができてきています。	買い物をする所が少ないことから、昨年11月から事業所敷地内の駐車場に移動スーパーに来てもらえるようにした。運営推進会議に参加していた住民代表が民生委員であったことから、チラシを作成してくれるなど、新たな交流への取組みが始まっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・11月より前の駐車場にて毎週水曜日に移動スーパーが来ることで地域の方のお買い物の役に立てる取組みを始めている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・グループホームがどのような場所であるかの理解がないままに参加下っていた地域住民の方からの、客観的で率直な意見に耳を傾けさせて頂く事が、新たな課題の改善になることもあり、サービスの向上に活かされている。	運営推進会議には、家族代表や近隣代表、行政、地域包括支援センター等の参加があり、活発な意見交換がなされている。「身体的拘束等の適正化のための検討委員会」も行われ、資料を回覧し意見交換がなされサービスの向上に繋がっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・運営推進会議においては行政の参加もあり、自ホームの状況を伝たり、行政からの情報を頂いたりすることができている。 ・乙訓グループホーム連絡会に参加することから、新しい学びや関係を生み出すことができている。	市担当者とは運営推進会議に参加してもらい、取り組みの報告を行っている。また市担当者からは、意見やイベント情報、アイデアなどをもらうなど協力関係は良好である。乙訓グループホーム連絡会に参加したことで移動スーパーの情報が得られ実施するなど意義のあるものとなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・職員は「身体拘束虐待予防指針」及び「身体拘束 虐待マニュアル」の研修を受けることで、周知徹底している。 ・身体拘束の適正化のための会議を行い、職員も議事録を回覧することで周知できている。 ・玄関は施錠していない。	運営推進会議の中で「身体拘束等の適正化のための検討委員会」を行い、視点の違う意見を参考に、やむを得ずでも改善していけないという問題意識を持って検討し続けるように取り組んでいる。センサーマットの使用については、職員の負担にもなると考え使用しない。ベッドを低床やマットにするなど工夫をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・職員は外部の虐待防止の研修に参加して、ユニット会議の内部研修で共有できている。 ・日々のケアの中で身体の状態確認を行い、内出血などが発見された時には、職員で原因を話す事で再発防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・外部研修に参加することで理解を深めている。 ・1階にフロアに後見人制度を利用している利用者がいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・契約時に記述内容の説明を具体的に行っている。 ・質問時やわかりにくい様子がある時には、事例などを伝えることで理解が頂けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・運営推進会議には、1年交代でお願いしている家族代表に出席頂き、家族の立場からの率直な意見を議題にすることもある。 ・会議の内容を広報誌に掲載している。 ・利用者や家族がいつでも気軽に話を聞いてくれる職員の関係を大切に、課題についてはユニットリーダーが管理者を含めて改善に努めている。	家族からは、運営推進会議で意見をもらっている。個別では来訪時や、家族カンファレンスの際などに聞きとれるよう関係づくりに努めている。利用者の意見は、普段の関わりの中で聞き取れるよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・ユニット会議・リーダー会議・職場懇談会と職員が意見を話せる場があり、管理者も出席していることで反映できている。 ・管理者は職員の意見や提案を、いつでも話せる関係を意識しており、反映を心がけている。	年に1回職員が自己申告した目標をベースに管理者と個別面談を行っている。職員からの意見に対してはアドバイスをしながら時間をかけて対応している。管理者は職員の出勤の際に声をかけられる状態であり、表情がいつもと違う時などには配慮をしている。職員が利用者から汲み取った意見として、利用者による手づくりおやつの実施や焼肉の希望からバーベキューを実施した例がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・各職員が向上心を持ち働ける環境を作れるように管理者は伝えている。 ・「職場レクリエーション」という福利厚生制度を使いコミュニケーションの場を作っている。 ・管理者は職員の家庭の事情などを把握したシフトを作成する等にて、働きやすい環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・職員の力量や個性などを把握することに重きを置き、適した研修をタイミングに合わせて受けてもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・地域のグループホームが集まる会議が年間3回ある。 ・その会議に参加することから、サービス向上につながることも多く、交流を大切にしている。 ・他の事業所主催の研修を職員育成に活用させてもらっている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・家族からの情報や本人の何気ない言動を見逃さないように心がけて、その方らしい生活が継続できるように努めている。 ・不安げな様子が感じられるときは、話しやすい言葉かけを行い思いを受け止める。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・見学の問い合わせ時より傾聴する姿勢を大切にひとつひとつ丁寧な関わりを持ち、誠心誠意応えられるように心がけている。 ・わかりにくい様子が伺える時は、事例などを交えて説明することで親しみやすい関係を築いていけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・家族の困っていることを話しやすい環境を作り、ゆっくり丁寧に傾聴して要望を見極めている。 ・その要望に対して考えられるサービスの説明を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・お一人おひとりと顔なじみの関係を築く事ができ、暮らしを共にする関係を築く事ができている。 ・洗濯たみなど、お願いした役割を行ってもらった時には、感謝の気持ちを言葉にして伝えている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・家族の面会時には絆が深まるように、日々の過ごし方などの近況を伝えて話題の提供に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・幼なじみの友人が訪ねて来られ、懐かしい話をされている。 ・入居前の友人と年賀状や手紙の交換を継続されている。 ・姉弟で1泊旅行を行かれる方がおられて、日々の活力になっている。	新型コロナウイルス感染拡大防止の自粛時には、家族宛に手紙を書いたり代筆したものを日常生活の写真と一緒に送付した。返事は、代読するなど支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・職員は利用者の個性や特徴を把握している中で、良好な関係が保てるように会話などの橋渡しを行っている。 ・皆で集まって体操などのレクリエーションをすることも多く、ユニットを超えた関わりを持つことができている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・ホームで看取りをされた利用者の家族が訪ねて来られることがあり、サービス終了後も馴染みの関係を保つことができている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・職員は一人ひとりの思いや何気ない会話や仕草を記録して集めることで、言葉にでききれていない思いを見つけていけるように、カンファレスを行い本人本位な関りができるように努めている。	入居時に家族に記入してもらったアセスメントシートを基に生活歴や意向を把握し、入居後は利用者本人の言葉を重視して追記する形で記録用紙に記入し共有している。ケアプラン作成時に落としていき、寄り添った支援ができるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・家族に記入してもらった「基本シート」より生活歴や趣味などの情報を活かして、その人らしい暮らしの継続に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・職員間でその方の朝食後のバイタルや食事量・排便の状況などを「生活経過表」に記入して共有している。 ・その記録をもとに主治医に状況の報告して健康管理に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・定期的に行っているユニット会議にて、一人ひとりの思いや課題の抽出を行っている。 ・会議で話し合った内容をもとにモニタリングを行い、アセスメントに活かして介護計画を作成している。	毎月行っているユニット会議にはパート職員も参加して開催され、介護計画の作成を行っている。 日々の職員間の情報共有は、申し送りにて1日の流れ(24h)を読んでから業務に就くようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・日々の様子を介護計画に基づきD-4シートに記録することで、ケアの実践やその結果を職員で情報共有を行い新たな介護計画の見直しに活かされている。 ・その日の体調など継続して把握が必要な事柄は申し送り表に記入して、勤務交代時には口頭でも送ることで共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・同事業所内にある居宅支援事業所や訪問介護などから得られる情報を支援に活かしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・地域に広がりつつある移動スーパーの導入を図り、ホームの前にてお買い物を楽しめるようにしている。 ・近隣の保育園との交流があり、お祭りや誕生かななどのイベント参加の行き来がある。 ・ボランティアのお茶の先生による「お茶会」を毎月第1月曜に行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・入居前のかかりつけ医の継続を基本とし、家族の意向に添った医療連携が取れている。 ・歯科に関しては連携医に随時相談や往診をお願いできる体制ができている ・「在宅療養手帳」を活用して、かかりつけ医と連携を図れる体制が整っている。	本人、家族が希望するかかりつけ医となっている。受診は基本家族同行で時宜に応じ職員(ほぼ施設長)が同行、代行している。その際「在宅療養手帳」等を活用しながら本人の日頃の様子や変化を医師、家族に伝え、情報共有に努めている。今後口腔ケアの導入について、本人、家族の意見を聞き検討する予定である。	口腔内を清潔に保つことは、体全体の健康に繋がる大切なことですが、高齢になると自分で十分にケアすることが難しくなります。費用面等様々な問題点もあるかと思いますが、利用者が健康で心地よく生活するためにも、是非実現されることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・非常勤看護師と情報を共有した連携が取れている。 ・訪問時に様々な相談ができることで健康管理ができる体制にある。 		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・家族の意向をもとに入退院時には、かかりつけ医と医療機関の連携により迅速な対応ができています。 ・入院時は「介護サマリー」を作成することで情報提供を行っている。 ・退院支援に関しては医療的処置が不要になった状況で家族の意向確認を行い、病院との連携を図りながら退院支援を行っている。 		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・入居時には重度化の指針の説明をして同意をとっている。 ・終末期の意向を何気ない会話を交わしながら話し合うように心がけている。 ・看取りケアを行う時は、かかりつけ医と家族とのカンファレンスを行い「看取り介護についての同意書」を作成している。 ・ご家族の意向にてかかりつけ医の指示で、訪問看護との医療連携を行い看取りを行うケースもあった。 	入居時に本人、家族に重度化した際の指針を説明し同意をとり、その後は段階的に話し合いを持ち意向を確認している。医師が終末期と判断した時点で家族と話し合い、その後事業所がカンファレンスを行い、改めて看取り介護の説明をした上で「看取り介護についての同意書」を作成している。かかりつけ医の指示で家族同意のもと訪問看護を利用することによって医療連携が良好に推移し、良い看取りにつながった例がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	<ul style="list-style-type: none"> ・内部研修にて緊急時の対応の研修を行い備えている。 ・緊急時の連絡網を作成している。 		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	<ul style="list-style-type: none"> ・長岡京市社会福祉協議会の災害ボランティアセンター主催の研修などに参加して職員と共有している。 ・消防署に年2回依頼して、地震や地震後の出火を想定した総合火災避難訓練を近隣の協力をもとに行っている。 ・近隣に住む職員や支店体制などの緊急時の体制が整っている。 	災害対策マニュアルを設置し、近隣在住の職員や支店との連携を強化した体制を構築している。備蓄は同事業所倉庫に3日分保存している。地震や地震後の出火を想定した総合火災避難訓練を年2回(内1回は夜間想定)消防署に依頼し地域の協力を基に実施している。長岡京市社会福祉協議会災害ボランティアセンター主催の研修に参加して職員間で共有している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	<ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりの人格が損なわれないように配慮した声掛けを行うように心がけている。 スピーチロックなどの研修を行う事により、不適切なケアが行われていないかを、職員間で確認できるように努めている。 	常に一人ひとりの人格に配慮した声掛けを心がけている。業務を優先せざるを得ない状況下での不適切な声掛け等が聞き取れた場合は、場を変えた時に直接伝えたり、課題として、職員間で振り返り検討している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	<ul style="list-style-type: none"> その方に適したわかりやすい言葉掛けを行い意思決定ができるように心がける。 自分の思いを言葉にすることが難しくなってきた方へは、眼の動きや表情にて確認できるよう、ゆとりを持つようにしている。 		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<ul style="list-style-type: none"> 朝食後、新聞や好きな本を読み、疲れたらうつらうつらするような、のんびりとした日常を過ごして頂いている。 一人ひとりの気分や体調に合わせて、散歩や入浴など希望を優先した日常を、過ごしてもらっている。 ご夫婦でお住まいになっておられる方がいらっしゃる仲良く話しながら食事をされている。 		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> 毎月理美容の日を設定していて、髪染め、パーマ、お顔そりなど利用者の希望に添い、おしゃれを楽しんで頂いている。 希望者のみではあるが、2か月に1度「化粧療法」の時間があり生き生きと参加されている。 		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<ul style="list-style-type: none"> その月にお誕生日がある方の、好みやリクエストで「お好み食」の日を設けている。 寄せ鍋を一緒に作って食べたり、コロッケや巻き寿司・水無月やスイートポテトなど利用者とともに作ることを楽しんでいる。 年末には、うるち米ともち米を6:4ぐらいの割合で餅を作り、本人ができたての餅を好みで小さくして、砂糖醤油で食べてもらっている。 たこ焼きパーティーではノンアルコールビールを提供したり、喫茶さくらをオープンして、好みの飲み物やワッフルやたい焼きなどのトッピングを、オーダーに合わせて作ることで、いつもと違うおやつタイムを味わって頂いている。いずれは利用者がお店の人になり、可能であれば近隣に声をかけたいと 	日常の会話から好みを把握するよう努め、お誕生月には、好みやリクエストで「お好み食」の日を企画している。また、職員が利用者から聞き取って実施しているおやつ作りは週に2回実施している。利用者にとって「食べることは日々の生活における大きな関心事であり、利用者が「美味しい」と言っている時が1番素敵だ」という気づきから様々な企画を工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の食事量などは「生活経過表」に記録することで、一人ひとりの摂取量を職員で共有しながら健康管理を行っている。 ・食事時などのお茶は、できるだけ飲んで頂けるように声をかけたり、定期的に出すことに加えて、合唱後など飲んで頂けるように心がけている。 		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・毎食後口腔内がきれいにできるように、その方の口腔状況に合わせてケアを行っている。 ・本人ができる方には声をかけて行ってもらう、介助の必要な方は、職員が歯ブラシなどを使い行っている。 ・夜間は義歯を洗浄剤につけて清潔の維持をしている。 		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<ul style="list-style-type: none"> ・本人のしづさや表情を大切に、食事前などを目途に案内するようにしている。 ・排泄のパターンを見つかったり、案内が確実にいけるように職員で共有するために、排泄のチェック表を活用している。 	3名は排泄が自立しており、それ以外の方はリハビリパンツ等を使用されている。できるだけトイレでの排泄を目指しており、排泄チェック表の時間や回数の記録から個々の排泄パターンを把握し、さらにその時々本人の様子を重視しながら声掛けしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及nokatahahaisetugajiritusareteoriほす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・自然な便通につながるように、水分摂取や運動量に気を付けている。 ・バナナやヨーグルトを食してもらったり、便秘症の方には家族と相談して、毎日ヤクルトなどを飲んで頂き、腸内環境から整えるようにしている。 ・職員は排便の状況を把握するように努めて、無排便が長く続く時などは、主治医に相談している。 		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の体調を考慮して気持ちに添った声掛けを行い、本人の希望を優先している。 ・身体の状況より、浴槽に入ることにはリスクが有られる方は、シャワー浴となることもあるが、足浴をしたり、肩からしっかりとシャワーをかけることで身体が冷えないように努めている。 ・お湯の温度などは、一人ひとりの好みに合わせたり、入浴剤なども好みで使用してもらっている。 	基本的には一人ひとりの希望を尊重しているが、中2日のペースで体調に合わせて実施している。外出の前日には入ってもらえるように促している。特に強い拒否の方はいないが、入浴をしぶられる時は、時間はずらして声掛けしたり案内のタイミングを図る工夫をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	<ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりの体力や体調に合わせて、午睡など行ってもらっている。 ソファでテレビを見ながら、うつらうつらされる方やお部屋でゆっくりされる方と、本人の好きなように過ごして頂いている。 就寝前には室温などの調節を行い寝やすい環境を作るようにしている。 		
47		一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	<ul style="list-style-type: none"> 薬は家族と薬局の契約されている方が多く、すべて分包されている。その薬を指定された時間に服薬してもらっている。 薬の変更時は、薬の説明を確認するように心がけている。 		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> おやつ時間を利用して2階のフロアの模様替えをして喫茶店のようにしている。そこで皆が好きなものを注文できるような取り組みをしている。 毎週水曜日に移動スーパーが来ており、好きなものを購入できるようにしている。 おはぎ作りなど皆で作る楽しみ、食べる楽しみができるように企画している。 玄関前でお花や家庭菜園に取り組んでいて、水やりや収穫を楽しんで頂いている。 		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> 利用者の体調と天候に合わせて、散歩に出かけている。 花見や紅葉狩りには、何度かに分けながら、全員出かけられるように工夫をしている。 外食に出かけることもあるが、気候の良い時には屋外でお弁当食べることもある。 秋には家族にも参加の案内させて頂き、動物園などに出かける企画を立て参加下さっている。 姉弟で1泊旅行に行かれる方や娘さんとお買い物や外食を楽しんでおられる方もいる。 	日頃は天気が許す限り利用者の体調に配慮しながら一人ひとりのペースに合ったコースで散歩に行くようにしている。季節を楽しめる外出は、フロアでは歩行できても外では困難な方は車イスで支援している。重度の方でも家族が来られた時に一緒に出掛けるなどの支援を行っている。秋には家族に参加を募って行く動物園への外出は好評で2～3年継続している。入所時から一緒に顔なじみで年齢の近い家族など家族間の交流のツールとなっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> 現金の所持はないが、一緒に買い物に行ったり、移動スーパーでお買い物をする支援ができています。 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・家族や友人から電話がかかってくることもあり、話されることで馴染みの関係を継続されている。 ・皆で作成した年賀状を家族に送ったり、本人が友人など年賀状や手紙の交換されている方がいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・空間づくりには課題があるが、季節を感じて頂けるディスプレイを、利用者と一緒に制作して、空間を彩っている。 ・室温や湿度を利用者にとって快適になるように調節している。	共用空間で一人になれる場所作りが前年度の評価で期待していた内容であったため、ソファの配置を変えるなどして、一人でのんびりできるような空間となるよう試行錯誤して実施している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・入居時に本人の好みの家具を持ち込んでもらう事で、心地よく過ごせるような環境にしている。 ・家族の写真や家族からのプレゼントなど個々に好きなようにコーディネートされている。	家族の写真、本人や家族の作品を置いたり、家族からプレゼントされた鉢植えの花を置いて世話をしている方もあり、一人ひとりにとって心地よい環境となっている。そういったものは職員も目にとるとホッと気持ちが和んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり	・廊下に設置された手すりを歩行時に利用することで、安定した歩行ができるようになっている。 ・居室には表札を設置、トイレなどは、分かりやすく案内している。		